

事業報告書

【第8期】

2020年度

自：2020年4月 1日

至：2021年3月31日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

事業報告書 目次

I. 事業の概要	2
1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動	2
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動	5
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動	7
II. 理事会・評議員会に関する事項	13
III. その他	13
IV. 後発事象	14

I. 事業の概要

伝統ある日本文化の発展の過程において、日本語・漢字は文化の伝達と進展を根幹で支えてきました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるとともに、我が国における生涯学習の振興を通じて日本文化の発展に寄与することを目的としています。

この目的を達成するために、本年度も国内および海外において次に掲げる公益事業に取り組み、あらゆる人々の日本語・漢字の“学び”を支える活動を行いました。

事業（定款第4条1項）

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動
4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動

社会生活に欠かせない日本語・漢字に対する興味関心、尊重の念を抱き、生涯にわたって学習する動機付けや、言語生活が豊かに育まれる環境を整備するため、次に掲げる（1）～（6）の手段により、普及啓発・支援活動を行いました。

（1）漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営

日本語・漢字に対する興味関心を高め、不特定多数の人々の学びの動機付けや促進につなげることを目的に、漢字に関する情報の収集や発信、展示を通して漢字の“面白さ”“楽しさ”“奥深さ”を体感しながら学ぶことのできる「漢字ミュージアム」を運営しました。

本年度の来館者数は24,125人でした。

①開館日数：224日（臨時休館日数：87日＊新型コロナウイルス感染症の影響）

②開館時間：午前9時30分～午後5時

③休館日：原則、毎週月曜日（休館日が休祝日の場合は翌平日に振替）・年末年始

※新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、臨時休館や開館時間の短縮を行いました。

④利用料：

大人		大学生・高校生		中学生・小学生		未就学児	障害者
個人	団体	個人	団体	個人	団体		
¥800	¥700	¥500	¥400	¥300	¥200	無料	無料

*団体は20名以上（団体引率者は10名につき1名免除）／障害者の介護人（1名）免除

○割引・特典制度

- ・修学旅行・課外学習グループ割（2名以上のグループ）
- ・小中高生1名以上と同伴している大人の割引（2名まで）
- ・年間パスポート（発行日から1年間有効）

大人	大学生・高校生	中学生・小学生
¥2,500	¥1,600	¥1,000

⑤ワークショップ・講座・講演会の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、漢字学習をテーマとしたワークショップや講座・講演会等の開催は中止しました。中止に伴い、自宅・オンラインで体験できる「おうちミュージアム」や「臨時WEB無

料講座」を提供しました。

⑥企画展の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、期間限定の企画展（入館料のみで観覧可能）は、会期延期・延長や計画中止を行い、2企画開催しました。

ア) 「なやみ深き漢字学習展～明治から戦前へ～」 6月3日～1月5日 18,061名

イ) 「今年の漢字展」 10月21日～1月31日 8,050名

(2) 機関誌の発行

日本語・漢字学習に資する情報誌として、日本語・漢字に関する様々な記事を掲載した「漢検ジャーナル」を発行し、学習者・保護者・教員をはじめ、一般の方々に無料で配布しました。なお、新型コロナウイルスの影響により、一年に2回の発行となりました。

「漢検ジャーナル V o 1.30」(2020年 6月1日発行) 発行部数 40.1万部

「漢検ジャーナル V o 1.31」(2020年10月1日発行) 発行部数 38.0万部

(3) Webサイトの拡充

①漢字・日本語検索サイト「漢字ペディア®」 <https://www.kanjipedia.jp/>

漢字および日本語の学習を助け、さらなる興味関心を高めるための活動として、無料で漢字・日本語を検索できるサイト「漢字ペディア」を運営しました。このサイトは『漢検 漢字辞典 第二版』に掲載された漢字および語句のデータをもとに制作したもので、角川「新字源 改訂新版」と連携して漢字のなりたち情報も付加しています。パソコンやスマートフォンなどから調べたい漢字や語句をいつでも検索することができ、また、インターネット辞典「goo 辞書」とも連携をはかっているため、同辞典で漢字を検索すると「漢字ペディア」の情報が表示されるようになっています。5,216万pv/年間

②漢字・日本語キュレーションサイト「漢字カフェ®」 <https://www.kanjicafe.jp/>

漢字および日本語への興味関心を高めるための活動として、漢字・日本語キュレーションサイト「漢字カフェ」を運営しました。『漢検ジャーナル』等で当協会が発信したコンテンツはもとより、巷の漢字・日本語に関する情報を集めて発信していく情報サイトであり、身近な言葉に関する話題から少し学術的な話題までを分かりやすく伝えています。年間記事登録数 90件 83.7万pv/年間

③言語活動に取り組む先生のためのサイト「TEACHannel」 <https://teachannel.kanken.or.jp/>

新しい学習指導要領に記述がある「言語活動の充実」に資するために、言語活動に取り組む先生方に情報を提供する会員制ポータルサイトを運営しました。全教科の学びを支える「言語活動」に役立つ情報をお届けしています。実践事例 24件 コラム 42件

(4) 漢字文化啓発イベント

①今年の漢字®

『今年の漢字®』は、一年を振り返り世相を表現する漢字一字を考えることで、漢字の持つ奥深い意義を再認識していただく機会として、1995年から毎年実施している行事です。毎年11月に、全国からその年の世相を表す漢字一字とその理由を公募し、最も応募数の多かった漢字を12月14日の「漢字の日」に清水寺（京都市）の森清範貫主の揮毫により発表しています。本年は、応募総数 208,025票のなかから「密」が 28,401票（13.65%）を集めて1位となりました。

②今、あなたに贈りたい漢字コンテスト

“漢字がつなぐ絆”をテーマとして、「想いを込めた漢字を贈る」ことで人との絆を感じるきっかけや大切な人への想いを改めて認識する機会をつくることを目的とし、漢字を贈るメッセージコンテストとして全国から広く作品を募集しました。8回目となった今回は、「小学生部門」に9,847作品、「中学生部門」に18,069作品、「高校生部門」に14,026作品、「大学生・一般部門」に3,440作品、また「その他」として2,440作品、合計47,822作品の応募がありました。その中から以下60作品を入賞作品として決定しました。

＜賞区分＞

・絆大賞(各部門につき1作品)	計 4 作品
・日本漢字能力検定協会賞(各部門につき1作品)	計 4 作品
・審査員賞(各部門につき3作品)	計 12 作品
・佳作	計 40 作品
	合計 60 作品

応募のあった「贈りたい漢字」は計1,758字でした。

4部門を合計した「贈りたい漢字」は、「感」が最も多く、順に「笑」「謝」「楽」「優」「愛」「幸」「友」「支」「生」などの漢字が並びました。部門別の応募数の多かった「贈りたい漢字」は下記の通りです。

順位	小学生部門	中学生部門	高校生部門	大学・一般部門
1位	優	感	感	謝
2位	楽	笑	謝	愛
3位	笑	謝	笑	笑
4位	感	楽	愛	感
5位	友	優	楽	生

なお、昨年第7回の受賞作品を冊子化(55,000冊)し、全国の小・中・高校と教育委員会に寄贈しました。

(5) 漢字まなび活動助成

日本全国における漢字学習の振興を目指して、当協会以外の団体が行う、地域の漢字学習の振興に寄与する活動に対して、その活動費用の一部を助成する制度を、平成29年度より開始しました。活動1件あたりの助成金額は、活動に係る予算の二分の一以下かつ上限30万円としてホームページで公募した結果、本年度は、5団体5件の活動に対して助成しました。

(6) 支援活動

経済的、環境上の理由により検定の受検や漢字学習が困難な児童・生徒に対し、漢検の受検機会や学習書籍を無償で提供する学習支援を行いました。漢検の受検を通して日本語に親しむ機会を持つことで、漢字の運用能力や学習意欲の向上に役立っています。

【本年度の対象および支援者数】

・要保護児童生徒(義務教育課程在籍者)無償受検	延べ283団体	817名
・児童自立支援施設無償受検	延べ138団体	2,200名
・児童養護/児童心理治療施設への学習教材の無償提供	延べ207団体	5,550冊

2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動

日本の漢字とは何かを、漢字そのものの字体論や意味論等の側面から研究するのみならず、日本文化の側面からも研究する漢字文化研究や、日本語・漢字学習の普及啓発・支援活動ならびに日本語能力育成活動の深化と発展に資する研究活動を行いました。

(1) 漢字文化研究

①漢検漢字文化研究奨励賞

広く漢字文化に関わる学術的研究・調査等のうち、将来一層優れた展開が期待され、有望視される学究に対して、漢字文化研究奨励賞を授け、顕彰しました。本年度は 13 点の論考が寄せられ、以下 4 名の論文が選ばれました。受賞論文を「漢字文化研究 第 11 号」として刊行するとともに、協会ホームページにも公開し、更なる研究の深化を奨励しました。

各賞	受賞者（敬称略）	論文タイトル
最優秀賞	該当なし	
優秀賞	葛西 太一 日本学術振興会 特別研究員 PD	日本書紀β群の表現とその特質
優秀賞	Nguyễn Thị Thu Huyền 富山大学大学院人文科学研究科 修士課程 2 年	ベトナム加點資料の句読点から見た訓読の可能性
佳作	鈴木 裕也 京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 日本学術振興会特別研究員	改編本『類聚名義抄』における和音注の継承と増補について
佳作	戸内 俊介 二松学舎大学文学部准教授	「不」はなぜ「弗」と発音されるのか —上中古中国語の否定詞「不」「弗」の變遷—

②日本漢字学会

学術団体「日本漢字学会」は、当協会が漢字文化研究のより一層の振興をはかるために全国の研究者に呼びかけたことがきっかけとなって、2018 年 3 月 29 日に発足し、当協会漢字文化研究所が学会の事務局機能を担っています。例年 2 日間で開催していましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため日程を 1 日のみとし、11 月 28 日に第 3 回研究大会をオンラインで開催しました。研究大会では口頭発表 9 編の研究発表があり、会員・一般の方あわせて延べ約 120 名が参加しました。

(2) 日本語・漢字教育研究

①漢字・日本語教育研究助成制度

学校教育法に定められている学校等の教職員が行う漢字・日本語（国語）教育の実践的な研究活動に対して、研究活動費の助成を行っています。本年度は 8 件の応募をいただき、選考委員会による審査の結果、4 件が採択となり 2021 年度研究活動費の助成を行うことが決定しました。

所属機関	研究（代表）者	研究題目
東洋大学	田中 祐輔	15業種における場面別ビジネス日本語表現データベースの作成と定量分析 ―ビジネス日本語コミュニケーション能力向上に資する言語資源開発を目指して― (研究助成期間：2021年4月～2023年3月)
東洋大学	陳 秀茵	日越対照二字漢語のデータベースの作成と分析 ―日本語教育の観点から― (研究助成期間：2021年4月～2023年3月)
八幡市立男山東中学校	辻村 重子	中学生の小論文作成のための指導理論の構築とカリキュラムモデルの開発 (研究助成期間：2021年4月～2023年3月)
埼玉大学	劉 志偉	中国語を母語とする上級以上の学習者にとって必要な「漢字語彙」とは何か ―学習メモを手がかりに― (研究助成期間：2021年4月～2022年3月)

②検定の質的向上と能力判定の妥当性を高めるため、以下の分析を行いました。

- ・ 出題妥当性の検証
- ・ 受検者の誤答傾向の調査

③漢字・日本語学習に関する学際研究

京都大学と以下2つのテーマに関する共同研究プロジェクトを平成29年度に開始し、4年目となる今期は下記の研究成果が得られました。なお、本プロジェクトの成果は、当協会ホームページ上でも公表しています。

ア) 漢字能力が脳機能の発達・維持におよぼす効果の科学的検証

「高い漢字能力」を身につけ、さらに維持することの重要性を、学習期（学童期～青年期）と能力維持期（老年期）の2層を対象にした脳の研究によって科学的に証明することを目的として研究を進めました。成果として、「漢字能力の3つの側面（読字、書字、意味理解）の習得には、部分的に異なる複数の認知能力が関わっている」こと、および「漢字を手書きする力の習得が高度な言語能力の発達に影響を与える」ことが発見されました。本研究成果は、京都大学大学院医学研究科 大塚貞男 特定助教、村井俊哉 教授の研究グループによって報告されたもので、2021年1月26日に本研究論文が国際学術誌「Scientific Reports」にオンラインで掲載され、1月27日に同大からプレスリリースされました。

イ) 人工知能（AI）による漢字・日本語学習研究

検定等を通じて蓄積されたノウハウや膨大な手書き文字データを分析し、漢字の適切な使い方や文章力向上に資する学習システムを構築、学習指針を提供することを目的として研究を進めました。成果として、AIを活用した漢字認識技術や、コンピュータによる文章理解と人間による読解との両方での活用を目指す基礎的データを導きました。特に語彙難度推定の成果を活用した読売新聞のニュース記事タイトルがそのまま漢字の「読み」「書き」問題として出題されるアプリ「漢検とニュース」は、2019年4月リリース後、随時バージョンアップし、無料でサービス提供しています。これら一連の研究成果は、京都大学大学院情報学研究科 黒橋禎夫教授の研究グループにより2020年11月16日～20日のEMNLP2020（自然言語処理に関する国際会議）をはじめ、言語処理学会年次大会で報告しています。

3. 日本語・漢字に関する能力育成活動

普及啓発活動によって日本語・漢字に興味関心を持った人々に学習する機会を広く提供するため、研修会、教材の発行等を行い、その学習成果と達成度を測る検定試験を実施し、合格証明書の発行を行いました。

(1) 「日本漢字能力検定」の実施報告

①検定級および検定料

1級：5,000円 準1級：4,500円 2級：3,500円 準2級・3級・4級：各2,500円
5級・6級・7級：各2,000円 8級・9級・10級：各1,500円

②実施日

2020年6月21日に予定していた第1回公開会場・準会場での検定は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止し、第2回公開会場および第3回公開会場での検定は、人数制限の上で実施しました。また、第3回公開会場の宮城県・福島県での検定は、前夜に発生した地震により、受検者・運営者の安全を第一に考え、実施を中止いたしました。

回	公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
第1回	2020年6月21日(日) ※中止		2020年6月13日(土)	2～10級
			2020年6月19日(金)	2～10級
			2020年6月21日(日) ※中止	
			2020年7月10日(金)	2～10級
第2回	2020年10月18日(日)	1～10級	2020年8月20日(木)	2～10級
			2020年9月11日(金)	2～10級
			2020年10月18日(日)	2～10級
			2020年10月23日(金)	2～10級
			2020年10月31日(土)	2～10級
			2020年11月6日(金)	2～10級
第3回	2021年2月14日(日) ※宮城県・福島県は中止	1～10級	2021年1月28日(木)	2～10級
			2021年1月30日(土)	2～10級
			2021年2月12日(金)	2～10級
			2021年2月14日(日)	2～10級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	計
公開会場	-	178	167	345
準会場	6,517	14,605	11,539	32,661
合計	6,517	14,783	11,706	33,006

④漢検 CBT (Computer Based Testing)

通常の年 3 回 13 日程の検定日に限定せず、より多くの受検機会を設けることを目的として、コンピュータを利用した漢検 CBT を実施しました。

	会場数	志願者数
公開会場	207	44,621
準会場	82	1,772
合計		46,393

⑤志願者数・受検者数・合格者数

2020 年度の志願者数は 1,413,243 人でした。回・級ごとの内訳は次のとおりです。

2020年度総計

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,939	11,552	115,728	216,301	364,178	191,154	146,270	83,311	81,310	77,764	67,740	55,996	1,413,243
受検者数	1,601	9,662	107,517	206,542	348,887	183,123	139,182	79,608	77,464	73,618	64,307	52,342	1,343,853
合格者数	166	2,406	30,146	82,036	172,396	99,761	103,819	64,849	68,020	62,611	59,048	50,101	795,359
合格率(%)	10.4%	24.9%	28.0%	39.7%	49.4%	54.5%	74.6%	81.5%	87.8%	85.0%	91.8%	95.7%	

1級～10級平均合格率 59.2%

第1回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	0	0	17,851	36,286	54,778	25,615	20,861	6,285	5,093	4,075	3,199	2,437	176,480
受検者数	0	0	16,954	34,572	52,211	24,530	19,947	6,086	4,919	3,933	3,139	2,320	168,611
合格者数	0	0	4,348	13,855	25,453	12,248	14,053	4,577	4,099	3,034	2,745	2,208	86,620
合格率(%)	-	-	25.6%	40.1%	48.8%	49.9%	70.5%	75.2%	83.3%	77.1%	87.4%	95.2%	

1級～10級平均合格率 51.4%

第2回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	891	5,408	48,133	97,722	184,630	95,771	64,663	31,122	30,603	29,033	24,650	18,895	631,521
受検者数	791	4,807	45,528	94,795	179,308	92,955	62,459	30,164	29,553	27,763	23,561	17,726	609,410
合格者数	86	943	12,415	36,854	89,674	51,963	46,307	24,230	25,632	23,581	21,630	16,890	350,205
合格率(%)	10.9%	19.6%	27.3%	38.9%	50.0%	55.9%	74.1%	80.3%	86.7%	84.9%	91.8%	95.3%	

1級～10級平均合格率 57.5%

第3回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,048	6,144	49,744	82,293	124,770	69,768	60,746	45,904	45,614	44,656	39,891	34,664	605,242
受検者数	810	4,855	45,035	77,175	117,368	65,638	56,776	43,358	42,992	41,922	37,607	32,296	565,832
合格者数	80	1,463	13,383	31,327	57,269	35,550	43,459	36,042	38,289	35,996	34,673	31,003	358,534
合格率(%)	9.9%	30.1%	29.7%	40.6%	48.8%	54.2%	76.5%	83.1%	89.1%	85.9%	92.2%	96.0%	

1級～10級平均合格率 63.4%

※志願者数には、漢検 CBT 志願者および当協会が判断した事由（伝染性病症や天災地変など）により受検を次回実施日に繰り越し、もしくは検定料を返金した志願者を含む。

⑥資格活用状況調査

例年は全国の大学・短期大学、専修学校、高等学校における「漢検」の活用状況を調査していますが、2020 年度はコロナ禍における学校の状況に鑑み、実施を見送りました。

⑦成績優秀者表彰

「漢検」において、漢字学習に取り組んでいる人の努力を称え、さらなる学習の励みとしていただく目的で、受賞者・受賞団体を選考しました。本来であれば、成績優秀者表彰式を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、2020年度の成績優秀者表彰式の式典開催は見送り、WEBでのイベントを実施する予定です。

受賞者の内訳は次のとおりです。

本年度は、個人賞として203名と6組の家族に、団体賞として335団体に各賞を授与しました。

個人賞

◇日本漢字能力検定協会賞	1～10級	合計32名
◇全国検定振興機構理事長賞	1～10級	合計32名
◇優秀賞	1～10級	合計32名
◇奨励賞	1～10級	合計92名
◇特別賞		
<個人の部> 級を問わず年間での最高齢合格者		1名
1級・準1級各級の最年少合格者		2名
<家族の部>		6組

団体賞

◇日本漢字能力検定協会賞	4団体
◇最優秀団体賞	20団体
◇優秀団体賞	98団体
◇奨励賞	151団体
◇特別賞	62団体

⑧各種表彰制度

・「満点賞」

満点合格者の努力を称え、さらなる学習の励みになるよう、各級に満点で合格された方に、合格証書・合格証明書・検定結果通知に加えて「満点賞」の賞状を授与しました。当年度の授与者は延べ25,842名でした。

・「家族受検表彰制度」

生涯学習の奨励と受検者の学習意欲向上を目的として、家族そろって合格した場合に、個別の合格証書に加えて、合格した家族全員の氏名が入った「家族合格表彰状」を申請希望により授与しました。当年度の希望家族数は3,636件でした。

・「団体内表彰制度」

受検者の学習意欲の向上を目的として、各団体が独自の基準で合格者を表彰できるよう、「表彰支援セット（賞状・楯・文具）」を制作し、1日程の志願者数80名以上または年間累計志願者数80名以上の条件を満たした希望団体295団体に479セットを送付しました。

(2)「BJT ビジネス日本語能力テスト」の実施報告

2017年度より実施形式が従来のPBT（Paper Based Testing）からCBT（Computer Based Testing）に移行しています。

①実施日

各テスト会場の開設日時に応じて随時

②実施地

国内：33 都市 48 会場

海外：19 国／地域 58 会場

③受験料

7,000 円（税込、日本国内）

④志願者数

	志願者数
国内	3,489 名
海外	1,988 名
総計	5,477 名

(3)「文章読解・作成能力検定」の実施報告

漢字学習の先にある、日本語文章を読み解き、作成する能力を育成するための「文章読解・作成能力検定」を実施しました。

①検定級および検定料

2 級：4,000 円 準2、3 級：3,000 円 4 級：2,000 円

②実施日

公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
2021 年 2 月 14 日（日）	2～4 級	2020 年 6 月 9 日（火）	準2～4 級
		2020 年 10 月 17 日（土）	準2～4 級
		2020 年 11 月 13 日（金）	準2～4 級
		2021 年 1 月 27 日（水）	準2～4 級
		2021 年 2 月 12 日（金）	準2～4 級
		2021 年 2 月 14 日（日）	2～4 級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	計
公開会場	-	-	2	2
準会場	29	151	164	344
合計	29	151	166	346

④志願者数・受検者数・合格者数

2020年度総計

	2級	準2級	3級	4級	計
志願者数	464	5,163	13,011	7,258	25,896
受検者数	378	4,851	12,334	6,808	24,371
合格者数	290	3,283	9,181	5,391	18,145
合格率(%)	76.7%	67.7%	74.4%	79.2%	

2級～4級平均合格率

74.5%

⑤文章力テスト・論理的文章力トレーニング for Business（論トレ）の実施

企業等の団体において、任意の日時・場所で受検できる文章力テストを実施し、3,491人が受検しました。また、2020年7月より、パソコン入力で行う論トレを開始し、3,404人の受講がしました。

⑥資格活用状況調査

例年は全国の大学、短期大学における「文章検」の活用状況を調査していますが、2020年度はコロナ禍における学校の状況に鑑み、実施を見送りました。

(4) 学習支援講座

①漢検生涯学習ネットワーク研修会

漢検1級・準1級合格者に漢字や日本語についてより深く学ぶ機会を提供するため、漢検生涯学習ネットワークを組織しています。本年度で会員数は10,400名に達しました。会員向けの通信を年2回発行（ホームページでも公開）しました。

※新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、研修会は中止いたしました。

②漢字教育サポーター育成講座（講師養成）

「漢検生涯学習ネットワーク会員」を対象に自らの漢字の知識を各地域の学習支援に生かせる講師を養成するため、「漢字教育サポーター育成講座」を希望者向けに開講しました。講座は立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が主催する「漢字教育士」認定講座のカリキュラムに基づいたWebでのビデオオンデマンド講座で、1年間に4科目、全80時間の講義の視聴と確認テストを行い、合格者63名を第9期修了者として認定しました。

③漢字教育サポーター紹介制度

漢検の上位級（1級・準1級）の合格者で、一定の専門的知識を有している者（「漢検生涯学習ネットワーク」会員で「漢字教育サポーター育成講座」を修了した者）を漢字教育サポーターとして登録し、そのプロフィールをホームページ等で公開することにより、講座の開講を希望する団体等に紹介する学習支援活動を行いました。紹介実績9件。

漢字教育サポーター登録者数：654名（1期～8期合計）

④企業向け研修講師派遣

企業が人材育成施策として文章検コンテンツを導入する際、教材やアセスメントと併せて学習の動機づけを行いたいという要望に応え、研修を実施しました。

(5) 教材の発行

広く一般の人々に対し学習の機会を提供する手段として、教材や参考書を発行し、書店や教育現場を通じて流通させました。あらゆる分野のあらゆる年齢層の人々に対し、その多様な学習ニーズに応える教材として、次の学習教材を提供しました。

①検定・テストに対応するもの

「漢検 漢字学習ステップ」「漢検 過去問題集」「文章カステップ」ほか

・・・・・・845,292冊

②日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢検 漢字辞典」「漢字学ことはじめ」「マンガで体験！にっぽんのカイシャ」ほか

・・・・・・・・11,813 冊

合計 857,105 冊

③その他デジタル教材

「漢字学習アプリ『いちまると旅しよう！ しりもじ漢検』」ほか

また、上記の有料の教材や参考書だけでなく、無料で利用していただける教材も制作し、教育現場を通じて提供しました。

①検定・テストに対応するもの

「漢検 目安級診断プリント」「漢検 漢字 50 問プリント」ほか

・・・・・・・・748,628 部

②日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢字でわーく・わーく」「リアル脱出ゲーム」ほか

・・・・・・・・598,384 部

合計 1,347,012 部

Ⅱ. 理事会・評議員会に関する事項

2020年度の理事会・評議員会の開催状況は以下の通りである。

- ・理事会（定例）

日 時：2020年6月8日（月）午後2時

場 所：当協会 京都本部・東京事務所および非常勤理事の活動拠点（web会議）

出席者：理事11名、監事総数3名

- ・評議員会（定時）

日 時：2020年6月23日（火）午後3時

場 所：当協会 京都本部・東京事務所および評議員・監事の活動拠点（web会議）

出席者：評議員7名、理事4名、監事3名

- ・理事会（定例）

日 時：2020年9月1日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部・東京事務所および非常勤理事の活動拠点（web会議）

出席者：理事12名、監事3名

- ・評議員会（報告の省略）

日 時：2020年11月5日（木）

同意者：評議員総数11名

- ・理事会（定例）

日 時：2020年12月1日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事11名、監事3名

- ・理事会（定例）

日 時：2021年3月2日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事12名、監事3名

- ・評議員会（臨時）

日 時：2021年3月19日（金）午後2時

場 所：当協会 京都本部および評議員・監事の活動拠点（web会議）

出席者：評議員8名、理事4名、監事2名

Ⅲ. その他

（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響）

新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、「日本漢字能力検定」の第1回公開会場受検の中止や漢字博物館・図書館の一時休館など協会の事業活動に広範囲に影響を及ぼしました。2021年度についても影響の期間・規模等については予測が難しいところですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっ

ては影響を受けることが予想されます。

IV. 後発事象

なし

2020年度年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しません。

2021年 6月

公益財団法人 日本漢字能力検定協会